



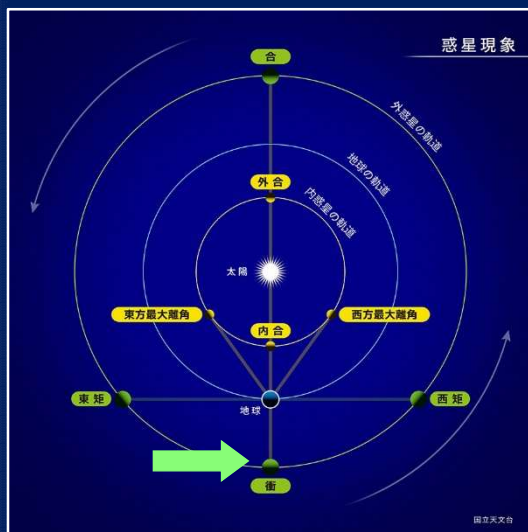
土星をみてみよう

今年の土星はうお座のあたりで輝いている。

10月5日は衝という惑星現象のためよくみえる。

衝とは、地球からみて土星と太陽が、ちょうど反対側に位置する瞬間である。

このとき、太陽・地球・土星が一直線にならび、地球と土星の距離がもっとも近くなるため、観覧に適している。



太陽と地球、惑星の位置関係とその名称 ©NAOJ
外惑星の軌道：火星、木星、土星、天王星、海王星の軌道
内惑星の軌道：水星、金星の軌道



10月5日20時ころの空 (StellaNavigator/アストロアーツ)

☆土星の環

土星は太陽系を構成する惑星で、太陽から近い順で6番目に位置している。木星について太陽系で2番目に大きいガス惑星であり、主に水素やヘリウムなどの軽いガスでできている。最大の特徴である環は、無数の氷の粒や岩石でできている。環の幅は何万kmもあるが、厚さは100mほどと非常に薄い。

このため、環が地球に対して水平になるときに環がみえなくなる。15年に一度の「土星の環の消失」という現象だ。

昨年はこの現象が起こり、環がみえなくなったときがあった。現在は再びみえるようになり、土星本体と環の間を観覧できる。



10月5日20時00分ころの土星 (Stellariumにて作成)

次回の観覧会

【10月23日（金）】
18：00～22：00
（最終受付 21：30）

テーマ
「後の月」

☆土星の衛星

土星にはおよそ300個の衛星があり、60個ほどには名前がつけられている。

10月5日は主要な衛星が土星の近くにみえる。条件がよければ明るいものは望遠鏡で観覧できるかもしれない。

ちなみに天文ソフトStellariumにてシミュレーションしたもので、エンケラドゥス・ミマス・ティス・デイオネ・レアなどが望遠鏡の視野内に位置しそうであった。

最大の衛星であるタイタンは図にはないが、ティスよりもさらに土星からはなれたところにいるためである。10月5日はタイタンの観覧はできないだろう。